



伊藤 洋平 議員



録画映像

公共施設マネジメントに関する件

**問** 公共施設の統廃合、全体の量の圧縮に向けてどのように進められるか

**答** 市長 個別施設計画などに基づき、劣化度や利用度を勘案して適切な配置に努めたい

**問** 公共施設等がこれから大量に更新時期を迎える一方で、15歳〜64歳の生産年齢人口が減少し、市税収入の増加が難しい状況となっていくことが予想されます。さらには人口減少等により、今後の施設利用等の需要が変化していく中、施設の量の最適化を進めていく必要があることから次の質問をさせていただきます。  
 (1)施設の統廃合、全体総量の圧縮に向けて、施設の廃止、売却や転用等どのような計画が進められているか。  
 (2)利用率が低い施設について、利用率向上に向けての施策等をどのように考えているか。

(3)今後の更新に掛かる費用に関し、平準化に向けてどのように取り組まれるか。

**答(市長)** (1)施設の統廃合などに関するこれまでの進め方について、市では、公共施設等総合管理計画の策定以前から市営住宅や公園施設などの個別施設計画や修繕計画を持ち合わせており、市としてこれまで、老朽化による利用率の減少を主な理由として、50件を超える管理施設の削減などを行ってきました。

今後も個別施設計画や修繕計画などに基づき、劣化度や利用率を勘案しながら、適切な配置に努めてまいりたい。

(2)施設の利用率向上に向けての施策等について、市内公共施設全体の利用状況は、平成26年度を100とした場合、令和元年度では86、令和4年度では66と、コロナ禍の影響はあるものの、人口減少なども影響しているものと推測され、大きく減少しています。

利用率の向上は、少子高齢化に対応した健康づくりや各種サロンなど、地域コミュニティを活かした取り組みが考えられますが、地域の皆さまが積極的に利用していただくことが大前提となるものと考えており、より利用しやすい施設としては、空調設備の完備やバリアフリーなどによる施設の機能向上となりますが、市では施設の維持を基本的な考え方として取り組みを進めているところです。

(3)更新費用の平準化に向けた取り組みについては、施設の維持を基本的な考え方としつつ、劣化度や利用率の見直しなども勘案し、場合によっては統廃合などといった選択肢も視野に入れる必要があると考えています。

その上で、大規模修繕などが必要な施設の更新費用は、財政措置のある起債事業などにより財政負担を軽減・平準化するとともに、民間活力の導入も検討し、質の高い住民サービスの提供と健全な財政運営との均衡を図りながら適切な施設の再配置を実現してまいりたい。

**問** 学校の統廃合については、どのような考えか。

**答(教育長)** 文部科学省では、学校の統合を進めていくようにという指示もあり、そのために4クラス以上の学校づくりをしながらということになっています。

しかし、そうなると地域では、ほとんど学校がなくなってしまうことになり、残していくために特色のある学校づくりをしてほしいと言われています。

北斗市では、特色のある学校づくりを進めていくために、土曜授業やコミュニティスクールの進めています。

ただ、どうしても人数が少なくなってきたり学校もあるので、今後どうあるべきなのかというのを地域と一緒に教育委員会のほうで考えています。



北斗市の特認校小中学校

また、特認校制度問題もありますので、そのようなことを考えれば、小規模校だからといってなくしていくというような考え方には今のところなっていないと思います。 **答(市長)** 市内の特に小学校に関して言えば、新設された学校以外はすべて150年の歴史を持っている学校です。地域のコミュニティの場でもありますし、また、その地域の文化の場でもありますので、慎重に検討してまいりたい。 いずれにしても、公共施設、これは市民の皆さんが利用する大事な施設なので、統廃合も含めた中できちんと今後議論してまいりますが、あくまで住民サービスの低下などを起こさない形で進めてまいりたい。